

紙ごみ100%リサイクル運動の推進

地球温暖化防止に向けて

現在、この地球上で起こっている最も深刻な環境問題は、地球の温暖化であるといわれています。

ここでは地球温暖化防止のための、町の施設での「紙ごみ100%リサイクル運動」を紹介します。

地球の温暖化とは…

ごみや燃料を燃やすと、二酸化炭素などの温室効果ガスが発生します。それらが地球の大気中に蓄積することで、太陽からの放射熱が地球表面から拡散しにくくなり、地球の表面温度が

高くなる現象です。

世界各地で起こっている豪雨

や洪水、干ばつなどの異常気象の多くが地球温暖化の影響だと考えられており、海面の上昇による砂浜の消失やマラリアなどの熱帯病の発生など、いろいろな悪影響が予想されています。

地球温暖化の仕組み

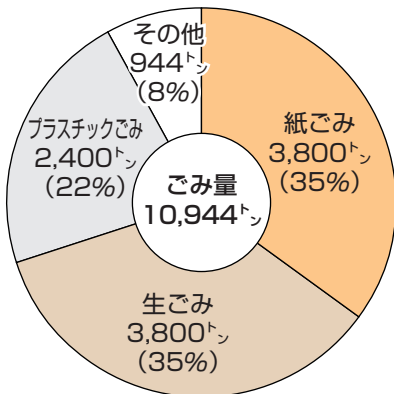
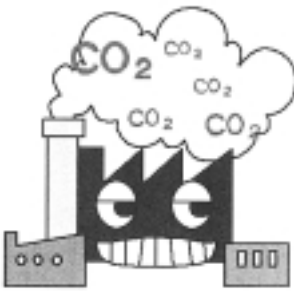


温室効果ガス排出量の現状

平成12年度に学校や公民館などを含め、すべての町の施設から排出された温室効果ガスの総排出量は、10,450トン（二酸化炭素に換算。以下同じ）でした。

このうち塵芥処理センターからは、413トン、全体の71%が排出され、ごみの焼却がいかに多くの温室効果ガスを排出しているかがよく分かります。

また、電気エネルギーから私たちの飲み水を作っている浄水場からは全体の11%、1,133トンが排出されています。



▲焼却したごみ量の内訳

温室効果ガス発生抑制に向けて

平成12年度中に塵芥処理センターで焼却したごみ量は10,944トンで、そのうち紙ごみが3,800トン、全体の35%を占め、またプラスチックごみが2,400トン、全体の22%を占めています。

このことから、ごみ焼却量を減らすには、紙ごみとプラスチックごみを削減することが非常に大切で、それが温室効果ガス発生を抑制することになると考え、ごみ排出量の削減と紙ごみやプラスチックごみなどの分別収集を強力に推進することとしました。

このページに関するお問い合わせは、産業生活課へ
0794(35)2364

播磨町地球温暖化防止率先実行計画の概要

町では、今年3月に町の事務・事業に伴い発生する温室効果ガスの発生を抑制するため、すべての町の施設とその職員を対象とした『播磨町地球温暖化防止率先実行計画』を策定しました。

この計画では、温室効果ガスの発生抑制目標や取り組み内容などを示しており、全職員はこの計画に基づき、温室効果ガスの排出抑制に努めることとなっています。

具体的な数値目標

『平成12年度温室効果ガス発生量10,450トンを基準にして、平成19年度までに15%以上削減し、年間総排出量を8,886トン以下』とする。

具体的な取り組み目標

- ①用紙の使用量を、年間10%以上削減する。
- ②紙ごみを100%回収し、再生利用を図る。
- ③事務用品は、環境への負荷が少ない製品の購入を行う。
- ④昼休みなど、業務に支障のないときは、照明器具の消灯など節電に努める。



▲計画書

焼却する紙ごみを減らします

焼却する紙ごみを減らし、再生利用量を増やすために、町の施設・家庭・事業所や工場ごとに、次のような方法で、焼却する紙ごみ量を減らします。

①町の施設では

この3月に策定した『播磨町地球温暖化防止率先実行計画』に基づき、すべての町の施設において、全職員が次のことに取り組みます。

- 用紙の使用量を年間10%以上削減します。
- 紙ごみを100%回収し、再生利用を図ります。

②家庭では

新聞紙や雑誌、紙箱などの紙類や布類を、『可燃ごみ』としてごみステーションに出す人がいますので、『資源ごみ』として出していただくよう、次のような啓発を強力に推進し、分別収集を徹底します。

○自治会ごとに『ごみの分け方・出し方』の説明会を開催します。

○資源ごみ分別の分かりやすいパンフレットを作成し、全戸配布します。

○分別の悪いごみについては、収集をせずに『取り残し』します。(取り残す場合は、次のよう

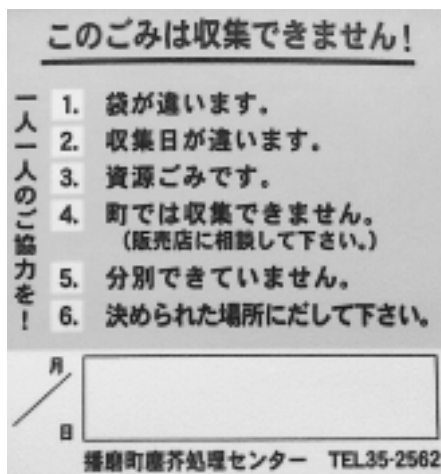
なステッカーを張ります)

③事業所や工場では (事業系一般廃棄物)

可燃ごみの約3割が事業所や

工場から搬入され、その多くは段ボールや書類などの紙ごみです。これらを減らすために、次のことをお願いします。

○段ボールや書類などの紙ごみを、塵芥処理センターに搬入される場合は、分別して、紙類置き場に置いていただきます。



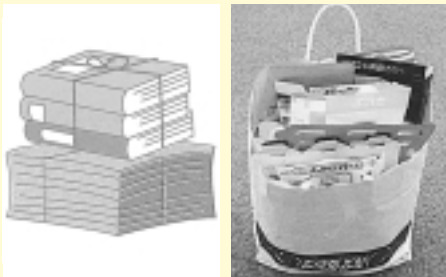
▲収集しない旨の張り紙



紙ごみの分け方・出し方

紙ごみは、次の5種類に分けて、ひもで十文字にしばるか、または紙製の手提げ袋に入れて出してください。

- ①新聞紙 (広告を含む)
- ②段ボール
- ③雑誌、書籍、書類、パンフレット、ダイレクトメール
- ④紙箱、紙袋、包装紙など
- ⑤飲料用紙パック



▲紙ごみの出し方の例▲

喜瀬川水生生物観察会のご案内

播磨町に残された貴重な自然であり、また潤いの空間である『喜瀬川』の川底に住む小さな水生生物を観察することにより、身近な自然にふれあうとともに、水の汚れ具合を調べます。

昨年の観察会では、絶滅が心配されているメダカなどが見つかっています。今年はどのような生物が見つかるのが楽しみです。

- ▶日時 8月7日(木) 午前9時～11時
- ▶内容 『喜瀬川』の川底に住む水生生物の観察
- ▶対象 町内在住の親子および水生生物に関心のある方
- ▶申し込み 7月31日(木)までに、住所・氏名・電話番号を産業生活課まで、ご連絡ください。
- ▶集合場所 緑道であいの道「ふるさと橋」 9時集合
- ▶持ち物 帽子、ビーチサンダル、タオル、筆記用具
- ▶講師 播磨ウェットランドリサーチ代表 松本修二氏
- ▶備考 雨天の際は中止します。



▲楽しかった水生生物観察会

親と子の水辺の教室参加者募集

- ▶日時 8月1日(金) 午前9時～午後5時
- ▶内容 バスで加古川の上流(加美町)まで行き、水生生物の観察や水質の調査をします。
- ▶対象 加古川市・高砂市・播磨町・稲美町の小学生とその保護者
- ▶定員 200人(申込者多数の場合は抽選)
- ▶参加費 無料
- ▶持参するもの 弁当、水筒、帽子、ビーチサンダル、タオル、筆記用具、ごみ袋
- ▶申し込み 7月11日(金)(必着) 往復はがきに、①住所②児童の氏名③学年④同伴する保護者の氏名⑤電話番号を書いて、〒675-8501 加古川市役所環境政策局「親と子の水辺の教室」係(☎0794-27-9201)
- ▶お願い 7月25日(金)までに返信はがきが届かない場合は、上記までご連絡ください。また、本教室に参加された方は、播磨町が8月7日(木)に実施する喜瀬川水生生物観察会にも、ご参加ください。二つの川での生き物を比較しましょう!